



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月8日

上場会社名 名糖産業株式会社
 コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangyo.co.jp>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 寛志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長兼経理部長 (氏名) 山崎 潔

TEL 052 521 7111

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,968	3.8	100	95.0	406	35.8	312	26.7
29年3月期第1四半期	4,787	7.1	51		299	26.2	246	12.6

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,752百万円 (%) 29年3月期第1四半期 310百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	18.48	
29年3月期第1四半期	14.60	14.55

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	64,224	42,433	66.1
29年3月期	60,570	41,019	67.7

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 42,433百万円 29年3月期 41,019百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期				20.00	20.00
30年3月期					
30年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,800	3.0	650	16.8	1,200	16.4	900	2.6	53.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	17,265,000 株	29年3月期	17,265,000 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	368,624 株	29年3月期	368,321 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	16,896,485 株	29年3月期1Q	16,870,829 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の復調に伴い輸出や生産が増えるなかで、個人消費や設備投資などの国内需要も持ち直して、景気の緩やかな回復基調が続きました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、消費者の志向にお応えできる高付加価値商品の提供が市場から求められている一方で、企業間競争による販売促進費などが企業収益を圧迫して、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、消費者の健康志向などにお応えする高機能な商品の提供ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて3.8%増の4,968百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加や退職給付費用の減少などにより、前年同期と比べて95.0%増の100百万円となりました。また、経常利益は、営業利益の改善や営業外収益の増加などにより前年同期と比べて35.8%増の406百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同期と比べて26.7%増の312百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

食品事業

当第1四半期連結累計期間におきましては、個人消費は緩やかに持ち直しており、主力の菓子部門は積極的な販売促進活動に取り組みましたところ、売上が好調に推移して増収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」や受託商品などが売上を伸ばして増収となりました。キャンディ類は受託商品の売上が落ち込みましたが、自社商品の売上が伸長して増収となりました。

粉末飲料部門は、ココア健康効果への注目が継続するなか精力的な営業活動を推進しましたところ、「香り高いミルクココア」や「乳酸菌ココア」などのココア類や受託商品などの売上が拡大して増収となりました。

主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、受託商品の売上が減少したものの自社商品が健闘し売上が伸びて増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、新商品を投入して積極的な販売活動に取り組みました結果、ゼリー類の売上は増加しましたが、主力のパウムクーヘン類が苦戦して減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ3.8%増の4,354百万円となりました。営業利益につきましては、減価償却費の増加や販売促進費の負担などが利益の圧迫要因となりましたが、売上高の増加や退職給付費用の減少などにより前年同期に比べ16.4%増の192百万円となりました。

化成品事業

酵素部門につきましては、海外を主な市場としておりグローバルな営業活動を展開しました結果、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は企業間競争が激化して売上を落としましたが、脂肪分解酵素「リパーゼ」が好調に売上を伸ばして増収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料用の「デキストラン」の売上が伸びて増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ3.4%増の540百万円となりました。営業利益につきましては、営業費用の減少などにより前年同期に比べ83.5%増の47百万円となりました。

不動産事業

不動産事業につきましては、ゴルフ場の営業収益の増加などにより、売上高は前年同期に比べ6.0%増の73百万円となり、営業利益は減価償却費の減少などにより前年同期に比べ26.9%増の30百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ956百万円減少し、13,500百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が801百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ4,610百万円増加し、50,723百万円となりました。これは、有形固定資産のその他に含まれる建設仮勘定が2,562百万円増加したことや、保有する株式の株価の上昇などにより投資有価証券が2,087百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ3,653百万円増加し、64,224百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,618百万円増加し、6,653百万円となりました。これは、その他に含まれる未払金が2,014百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ620百万円増加し、15,136百万円となりました。これは、繰延税金負債が623百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,239百万円増加し、21,790百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,414百万円増加し、42,433百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が1,439百万円増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間は、概ね当初の想定した範囲内で推移しております。現時点では通期の連結業績予想につきまして、平成29年5月12日に公表いたしました数値を修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,942	6,587
受取手形及び売掛金	4,263	3,461
有価証券	501	499
商品及び製品	1,022	1,056
仕掛品	435	454
原材料及び貯蔵品	1,010	1,228
その他	295	226
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	14,456	13,500
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,147	4,112
その他(純額)	8,631	11,192
有形固定資産合計	12,779	15,304
無形固定資産		
	69	69
投資その他の資産		
投資有価証券	33,042	35,129
その他	298	288
貸倒引当金	△76	△68
投資その他の資産合計	33,264	35,348
固定資産合計	46,113	50,723
資産合計	60,570	64,224

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,455	2,307
1年内返済予定の長期借入金	148	127
未払法人税等	132	26
返品調整引当金	8	6
その他	2,290	4,185
流動負債合計	5,034	6,653
固定負債		
長期借入金	5,814	5,792
繰延税金負債	5,137	5,761
役員退職慰労引当金	5	6
固定資産撤去費用引当金	210	210
退職給付に係る負債	2,917	2,950
その他	430	415
固定負債合計	14,515	15,136
負債合計	19,550	21,790
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	26,020	25,995
自己株式	△704	△704
株主資本合計	26,706	26,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,317	15,757
退職給付に係る調整累計額	△4	△3
その他の包括利益累計額合計	14,313	15,753
純資産合計	41,019	42,433
負債純資産合計	60,570	64,224

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	4,787	4,968
売上原価	3,164	3,252
売上総利益	1,622	1,716
販売費及び一般管理費		
販売促進費	581	649
給料手当及び賞与	345	356
退職給付費用	65	23
役員退職慰労引当金繰入額	0	0
貸倒引当金繰入額	-	2
減価償却費	15	23
その他	563	559
販売費及び一般管理費合計	1,571	1,615
営業利益	51	100
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	297	306
持分法による投資利益	0	7
その他	11	11
営業外収益合計	311	328
営業外費用		
支払利息	3	7
固定資産除売却損	20	11
支払手数料	-	2
為替差損	40	-
その他	0	0
営業外費用合計	63	21
経常利益	299	406
税金等調整前四半期純利益	299	406
法人税、住民税及び事業税	15	25
法人税等調整額	37	69
法人税等合計	53	94
四半期純利益	246	312
親会社株主に帰属する四半期純利益	246	312

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	246	312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△613	1,439
退職給付に係る調整額	56	1
その他の包括利益合計	△556	1,440
四半期包括利益	△310	1,752
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△310	1,752

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

耐用年数の変更

当社は、平成29年5月12日開催の取締役会において、新工場の建設を決議いたしました。この新工場の建設に伴い閉鎖となる名古屋工場のチョコレート製造部門等の固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ23百万円減少しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,195	522	69	4,787	—	4,787
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,195	522	69	4,787	—	4,787
セグメント利益	165	26	23	215	△164	51

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,354	540	73	4,968	—	4,968
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,354	540	73	4,968	—	4,968
セグメント利益	192	47	30	270	△170	100

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。